

## 5 児童福祉審議会の委員の定数に関する基準について

### 1 概要

#### (1) 背景

「地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律」に基づく社会福祉法（昭和26年3月29日法律第45号）及び児童福祉法（昭和22年12月12日法律第164号）の一部改正に伴い、児童福祉審議会（社会福祉審議会児童福祉専門分科会）の委員の定数に関する基準を本市の条例等で定める必要があります。

#### (2) 基準の分類

これまで法令で定められていた全国統一の基準につきましては、法令改正により「従うべき基準」、「標準」、「参酌すべき基準」の3つに分類され、本市は、この分類に基づき、条例を制定していく必要があります。

なお、今回の法改正では、法律に規定されていた基準自体が削除されたものがありますが、参酌すべき基準に準じて、従来基準を参考にしながら、本市基準を設定することとします。

	従うべき基準	標準とする基準	参酌すべき基準 (基準の削除も含む。)
国が示す基準の考え方	<ul style="list-style-type: none"><li>・条例の内容は、国の基準に従わなければならない。</li><li>・地域の実情に応じて国の基準の強化は許容</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・条例の内容は、国の基準を標準とする範囲内でなければならない。</li><li>・合理的な理由のある範囲内で、地域の実情に応じて、国の基準の強化、追加等は許容</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・条例の内容は、国の基準を十分参酌しなければならない。</li><li>・地域の実情に応じて国の基準の強化、追加等は許容</li></ul>

### 2 条例等に規定する基準の概要

#### (1) 関係法令

児童福祉法

#### (2) 基準の概要

児童福祉審議会の委員の定数に関する基準

(3) 対象（審議会・制度等）

施設等の名称	概要
児童福祉審議会	児童福祉に関する事項を調査審議する附属機関

(4) 規定する主な基準と類型

ア 従うべき基準

該当なし

イ 標準とする基準

該当なし

ウ 参酌すべき基準（基準の削除も含む。）

見出し	概要
児童福祉審議会の委員の定数 基準	20人以内

3 本市の対応

(1) 基本的な考え方

これまで、国の基準のもと、施策・事業を展開し、適切なサービス水準を確保してきたことを踏まえ、国の基準を基本としつつ、本市の実情や地域特性を考慮し、より適切なサービスが提供できる場合等には、本市独自の基準を設けることとする。

(2) 国の基準に対する本市の判断基準

ア 国の基準を採用するもの

- ・ 国の基準で適切な事務事業を執行できる場合
- ・ 国の基準で十分な安全性が確保できる場合
- ・ 国の基準を採用し、全国一律の水準を確保することが望ましい場合

イ 本市独自の基準を設けるもの

- ・ 国の基準を変更（独自基準を採用）した方がより本市の実情に合致する場合
- ・ 国の基準が最低基準であり、既に国の基準の上乗せとなっている市の基準を引き続き適用することが適切な場合
- ・ 政策の推進に向け、条例で規定することが適切な場合

### (3) 基準設定の方向性

「児童福祉審議会の委員の定数に関する基準」については、「子ども・子育て会議」（子ども・子育て支援に関する事項の調査・審議を行う附属機関。平成25年7月設置）を「児童福祉審議会」として位置づけ、当該機関の委員の定数基準を適用することで、本市独自の基準を設定します。

国の法令による基準	市条例で定める基準
<p><b>【参酌すべき基準】</b></p> <p>○児童福祉法 第9条 児童福祉審議会は、<u>委員20人以内</u>で、これを組織する。</p>	<p>○宇都宮市子ども・子育て会議条例 第3条 子ども・子育て会議は、<u>委員30人以内</u>をもって組織する。</p>

#### 【上記の理由】

本市においては、これまで審議会委員の定数に国の基準を適用し、児童福祉審議会において、調査・審議してきたが、児童・青少年などに関わる幅広い分野の委員で構成された「子ども・子育て会議」を「児童福祉審議会」として位置付け、児童福祉に加えて、幼児教育や青少年問題など、幅広い観点から児童福祉に関する総合的・包括的な審議を行うことで、本市における児童福祉のさらなる増進が期待できるため、本市独自の基準を設定します。

### (4) 施行日

平成26年4月1日（予定）